



茅ふきたより

巻頭インタビュー

茅葺き師は「夜は考えて寝ろ」というのが鉄則だな

廣山美佐雄さん 筑波流茅手 81歳

茨城県小美玉市生まれ

にほんの里100選 やさと茅葺き屋根保存会 理事
平成20年 森の名手 平成24年 国の卓越した技能者「現代の名工」

▼筑波流茅手 廣山美佐雄さん



- 01 巻頭インタビュー 廣山美佐雄さん
- 03 冬の会津を訪ねて 上野弥智代
- 04 第4回茅葺きフォーラム 静岡富士宮大会開催
理事の紹介 石川重人 / 米山淳一
- 06 会員からのおしらせ
- 07 白川郷合掌造り民家を「結」で屋根葺き実施へ

08 ニュース・イベント情報



伝ったりして。

そのうち義父も黙認で、ある職人に弟子入りした。24歳かな。もちろん弟子入りの最初は、親方の飯盛りだ。自分も食べなきゃならないから、親方が呼ばず立てるように、立て膝だ。骨のない魚がありがたかつたよ、すぐ飲み込めるから。そこで昔はみんな手ばかりだから、手は傷だらけだね。冬は寒いし。

丸い、平ら、ということが
きちんと見えないとな

義父はもちろんだが、親方も仕事はいつさい教えてくれない。いろんな人と仕事をしたが、それが修業だった。昔は「だんな場」があつて、親方とか先輩の仕事場だが、それをやると怒られた。きっちり仕事もわきまえてやらないとね。修業時代はつらいよ。

筑波では棟を「ぐし」というが、その両端の「きりとみ」も特徴の一つだね。切り留だな。他の地域からみると屋根勾配も違い、筑波のは下から見上げて「ぐし」が見えない。丸いんだ。そして四隅が低くなって、平らに見えることが大事なんだ。だけど茅がねると腐りが早いので、立ちあげる。この加減だな。

八郷の特徴的な屋根といえば、トオシモノだねえ。軒付けの化粧で、50年ほど前に15本もあるのをやったことあるが、大きな家は見栄えがよい。
普通は3、4本というところだな。あんまり多いと勾配がゆるくなって。しっかり葺いてあれば、勾配がゆるくたって雨さえ通さなければ50年から100年は持つよ。だけど1間葺くのに1人手間だから、多いとお金がかかる。今はやりたくても出来ないな。
2代続いた筑波茅手の家に婿入りしたんだが、農家だから、そっちが大事で、はじめは茅手になることを反対されたんだ。でも廣山家は親戚も含めて8人が茅手だった。関心があるから、ついていった。見よう見まねで手

若いと、パツと見て屋根勾配の高い低いがわからない。図面なんか見てもだめだ。八郷はかざりものが多いよ。覚える仕事がたくさんある。弟子の間は、夜に地面で「きりとみ」とかのかっこうを作って練習するんだ。昼の仕事を思い出しながら、下でこしらえる。そして考える。明日ここはどうやって葺くか、とか。考えてると真剣になって眠れない。だけど考えることが大事なので、「夜は考えて寝ろ」と若い人に言ってる。仕事の早さは、考えたことで、全体がよく見えるようになってっからだよ。

茅刈りは、ただ刈ってるだけではだめだね

仕事仲間の結束は大事だな。4人とかの自分のグループでやるから、隅とか勾配などに特徴が出るね。みんなで葺きあげた全体が一つの仕事だから、親方もそれを考えてやんなきゃならない。それぞれも自分で考えて、やれることはやるようにしなければね。結束では金銭問題も大事なことだよ。親方としては弟子も育てなければならぬし。仕事だって、ほんとはコツコツと屋根をさわってれば、大ごとにはならない。我々も雨風がくれば、お客さんの家を見て回ってるわけだから。これがあまりマイペースだと、

よくないな。

茅の仕込みも、昔は茅刈りの段階で、大・中・小と3段階ぐらいの長さにわけて刈ってた。生えている茅を、それなりに使う。短いほど中がまつまっているんだよ。今は長く刈ったものを、葺くときに3つぐらいに切ってこしらえる。だから長持ちしないんだ。筑波ではシマガヤはあまり使わないね。ほとんどヤマガヤだ。自分の生まれた小美玉はシマガヤを使ったがね。オシボコも、昔は細い真竹を使ったが、今はヤジノ(矢篠)を使ってる。息子は後を継がないけれど、若い人にはいろいろ教えてるから。できない仕事は、親方も手伝う。今の人は世間をあんまり歩きませんからね。職人仲間では「符牒」というものが昔あって、のれんわけの時に、それを教えるんです。知らない人からすれば、何を言ってるのか。ごはんはヤゴ、汁はトミ、お茶はカリ、旦那さんはイノジ、奥さんはゲンテキ。これも仲間意識を固くしてたんですかね。

(聞き手：坂本善昭)



冬の会津を訪ねて

上野弥智代

「会津の茅葺き 技と風景」を記録するため、冬の会津を訪ねた。

訪ねたのは、奥会津の只見町、南会津の南会津町の旧伊南村、前沢集落、水引集落、そして下郷町大内宿。3月も半ばにさしかかろうという頃、まだ只見には道の両脇に3メートルほどの雪の壁が残っていた。山も田畑も一面真っ白な会津の茅葺き集落の冬。冬の間の出入口になる馬屋、雪から頭だけ顔を出す茅ポツチ、雪解け水が滴る軒先、冬の終わりが近い会津の茅葺きの風景を記録した。

会津茅手の只見町、南会津町（旧伊南村）、下郷町の70代、80代のベテラン茅手3名に話を聞き、茅手の技と会津での1年の暮らしについて聞き書きをした。多雪地域での屋根葺き、出稼ぎで関東の技を学びながら修行した頃の話、11月から4月までの約半年の長い冬から春、夏、秋の山仕事、農業、手仕事など、昭和から現在までの多雪地での1年の暮らしを聞くことができた。

南会津町（旧館岩村）の水引集落は、尾瀬国立公園田代山登山口への入口の標高800メートルにある山間の茅葺き集

落。日光連山の山への入口の集落として成り立ってきた。現在は28戸で、7軒の茅葺き民家を今に残す。山際には水が流れ、豊富な清水を利用し、昔ながらの農村景観がよく残される美しい集落だ。

しかしながら、多雪地域の冬は長く厳しく、住民の高齢化や、結いの消失などにより、茅葺き民家の維持管理は危機的状況にあった。また、同じ旧館岩村の前沢集落は重要伝統的建造物群保存地区に指定されたが、水引集落はそのような文化財の制度によらずに、旧館岩村の補助やNPOの支援活動によってなんとか茅葺きが維持されてきた。しかし町村合併によってその補助も打ち切られた。

一方、東京のNPO団体の支援活動は、茅刈りや差し茅、屋直しなど、継続して行われている。また、首都圏から嫁いで来ていた方が、集落で使われず解体されていく民家を見ていてなんとかできないかと、茅葺き民家で民宿を始めるなど、新たな活用の試みも始まった。

3km程下流に位置する湯の花温泉は夏になると尾瀬への登山客で賑わう。その上流にある山への入口の水引集落。山歩きや山の暮らしを楽しむ人たちが訪れ、滞在する場所として、新たな活用の方策が生かされてはじめて、この茅葺きをまた残すことができるのではないだろうか。



▲下郷町大内宿



▲下郷町大内宿



▲南会津町水引集落



▲南会津町前沢集落

第4回茅葺きフォーラム 静岡県富士宮大会開催！

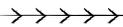
平成25年5月25日(土)～26日(日)

世界文化遺産登録を目指す「富士山」の裾野の四分の一を占める富士宮市には、かつて秣場（まぐさば）とよばれた良好な茅の草原が広がっており、山麓の各村々においては屋根葺きの材料を確保する裏山として大切に使われてきました。しかしながら、時代の趨勢から急速に茅葺き屋根が失われ、富士山麓の茅場はその役割を終えたのですが、戦後、酪農地帯としての土地利用が進んだ朝霧高原の一角に茅場は残りました。

平成24年3月、朝霧高原の茅場は文化庁より「ふるさと文化財の森」に選定され、貴重な茅資源の供給地としての役割が期待されています。これを利用し保全することで、かつて「遠っぽら三里」と呼ばれた富士山麓の広大なスキ草原の景観とともに、茅葺き景観の復活を目指し、さらに生物多様性の宝庫であるなど、再評価されている草原の価値を見直す取り組みも始まっています。

そこで、第4回茅葺きフォーラムで

は、富士宮市にて草原の景観、開催地をはじめとする全国からの活動報告をまじえて、茅葺きと草原の未来について話を深めたいと思います。みなさまのご参加をお待ちしております。



日時 平成25年5月25日(土)～5月26日(日)

会場 ○フォーラム・総会：富士宮市民文化会館（JR富士宮駅から徒歩15分）

○情報交換会・宿泊：富士山YMCA グローバル・エコ・ヴィレッジ

参加費 資料費 一般【2,000】円 会員・学生【1,000】円

情報交換会費 【3,000】円（各地の飲みもの持ち込み大歓迎！）

宿泊費 【6,000】円（税込・1泊朝食付）

見学会費 Aコース（半日）【3,000】円／Bコース（1日）【4,000】円（予定）

※ 昼食代含む

申し込み締め切り 平成25年5月7日（火）

問い合わせ・申し込み 一般社団法人日本茅葺き文化協会 事務局

〒300-4231 茨城県つくば市北条184 Tel/Fax 029-867-5829 E-mail info@kayabun.or.jp

■主催 富士宮市、富士宮市教育委員会、日本茅葺き文化協会

■後援 静岡新聞社・静岡放送、岳南朝日新聞、富士ニュース、岳陽新聞（予定）

■協力 朝霧高原活性化委員会

■ 5月25日(土)

10:00 開場、受付開始

11:00～11:45 日本茅葺き文化協会総会

昼食 会場周辺商店街(自由)

13:00～17:00 第4回茅葺きフォーラム

13:15～14:45 講演

草原の文化的景観(東京農業大学教授 麻生恵氏)

伊勢神宮式年遷宮と萱地管理(神宮司廳 営林部 中川典之氏)

14:45～15:15 ティータイム 情報交換

15:15～16:45 開催地と全国からの活動報告 コーディネータ: 米山淳一(地域遺産プロデューサー・日本茅葺き文化協会理事)

富士山世界遺産登録へむけて(富士宮市)

朝霧高原ふる森の茅場とその取り組み(朝霧高原活性化委員会)

御殿場の茅刈り事業について(富士勇和産業 長田友和氏)

西湖いやしの里根場の現状と課題(富士河口湖町)

世界遺産五箇山の合掌の森の取り組み(越中五箇山菅沼集落保存顕彰会 荒井崇浩氏)

茅葺きをもっと身近に(淡河かやぶき屋根保存会くさかんむり代表 相良育弥氏)

18:30～20:30 情報交換会

■ 5月26日(日) 8:30～16:00

<見学Aコース>

8:30 集合 大型バス+自家用車で移動

9:00～9:25 村山浅間神社、村山大日堂(世界文化遺産構成資産、国指定史跡)

9:45～10:10 井出家高麗門および長屋(富士宮市指定文化財)

10:30～10:50 旧鱒の家

11:00～11:30 朝霧高原茅場(ふるさと文化財の森)

11:45～12:00 竹川家の芝棟門

12:10～ 昼食 ふもとつばらにて地元食お弁当

13:00 解散 新富士駅へ

<見学Bコース>

8:30 集合 大型バス+自家用車で移動

9:00～9:25 村山浅間神社、村山大日堂(世界文化遺産構成資産、国指定史跡)

9:45～10:10 井出家高麗門および長屋(富士宮市指定文化財)

10:30～10:50 旧鱒の家

11:00～11:30 朝霧高原茅場(ふるさと文化財の森)

11:45～12:00 竹川家の芝棟門

12:10～ 昼食 ふもとつばらにて地元食お弁当

13:40～15:00 西湖いやしの里根場(山梨県富士河口湖町)

16:30 新富士駅 解散

◎交通案内

○公共交通機関をご利用の方 ※ 総会、フォーラム会場へは、JR「新富士」駅北口から送迎バスをご利用ください。

総会出席者: 東海道新幹線・新富士駅より送迎バス(1便)運行 9:45発 → 送迎バス総会会場着 10:45

東京駅発 8:26 こだま 639号 → 新富士着 9:34

新大阪発 7:00 のぞみ208号 → 名古屋 7:51 →

名古屋発 8:00 こだま634号 → 新富士着 9:31

一般参加者: 東海道新幹線・新富士駅より送迎バス(2便)運行 11:45発 → 送迎バスフォーラム会場着 12:45

東京駅発 10:26 こだま647号 → 新富士着 11:35

新大阪発 9:00 のぞみ4号 → 名古屋 9:52 →

名古屋発 10:00 こだま642号 → 新富士着 11:31

○自家用車をご利用の方

富士宮市民文化会館駐車場をご利用下さい

理事の紹介

茅葺屋根工事を始めたいきさつ

伝匠舎(株)石川工務所 代表取締役

石川重人

大学の建築学科を卒業後、静岡市の建設会社で主に鉄筋コンクリートや鉄骨造の現場監督をしておりました。家業の工務店を継ぐため昭和57年に郷里の山梨に帰ってきましたが、最初に担当したのが山梨市にあった山梨県の指定文化財の清白寺の庫裏(くり・お寺の住居)でした。大断面の化粧構造材が組み上がっていく迫力は当時28歳の私には大変感動的で、その後の私が日本の伝統的な建築に傾倒していくきっかけになりました。またここで二宮一幹さんという郷里の茅葺職人に出会いましたが、これが私と茅葺屋根の初めての出会いであります。

平成7年ころ、こちらも弊社とお付き合いのあった茅葺き職人の奥山哲夫さんという親方のごところに静岡大学を卒業したという若者が弟子入りしたことがありました。当時すでに山梨でも茅葺き職人さんの高齢化が指摘されておりましたところへ届いた朗報でございます、当社の茅葺屋根工事は一手に奥山さんのところへ集中して発注されることになりました。ところが何としたことかその若者が

2年もしないうちに辞めてしまったのです。期待が大きかっただけにそのショックは大きく、このままでは山梨の茅葺き職人がいなくなってしまう……。そこで白羽の矢が当たったのが当社の加々美栄君でした。当時ログビルダー上がりで、さりとて正式な大工にもなれないでいたところへ社長であった私の命がかたり、茅葺き職への道を歩むことになりました。加々美君の最初の現場は塩山駅の北口にある重要文化財の甘草屋敷です。この時から親方の二宮さんのもとでの修業が始まりました。その後二宮さんと奥山さんという二の親方を師と仰いで今日までやってまいったわけですが、初めはいよいよながらやっていた仕事も徐々に意欲が生まれ、今では一人前の茅葺き職人としていくつもの現場を任せられるまでになりました。

以上が、当社が茅葺き屋根工事をを行うようになったいきさつです。



理事の紹介

駅前茅葺民家

公益社団法人横浜歴史資産調査会常務理事

米山淳一

「みなとヨコハマの街中で茅葺民家を見かけるなんてありえない」と思われがちだがおっとどっこい茅葺民家は生きている。しかも、駅前。ホームからの眺めが一押しだ。茅葺民家は江戸初期に移築されたもので圓通寺の元客殿だった。ご当主の話によれば徳川家康が称名寺に詣でた時のお休み処だと言う。

駅とは京浜急行金沢八景駅。景勝地「金沢八景」にちなんだかつての湘南電鉄が名づけた駅名だ。さぞかし美しい海浜風景が広がっているのだが大半が埋め立てられマンションや戸建てが並びおよそ景勝地とは言い難い。だが、この茅葺民家と背景の里山が織りなす景観から景勝地の面影を感じずにはいられない。四季を通じて車窓を楽しませてくれるから僕にとっては、心やすらぐ大切な風景だ。ちょうど桜満開。まさに日本原風景を実感。

実は、この茅葺民家は、横浜市認定歴史的建造物。いわゆる保存物件なのだ。横浜市内では、昭和62年から横浜らしい景観に有効な歴史的建造物を戦略的に登録、認定して歴史を生かしたまちづくり

に活用しているのだ。赤レンガ倉庫を含めその数、約190件。

もう10年以上も前になるだろうか？ 屋根葺きが行われた。年配の葺き師は秦野市(神奈川県)の方だった。2人がかりで約2週間、通勤客で一杯のホームは絶好の見学場所になった。最近屋根がだいぶくたびれてきた。それにお隣にあった瀬戸神社の神官の住居だった茅葺民家が焼失してしまったからちよつと寂しい。

横浜郊外に目を移すと結構、茅葺民家は残っている。旭区の今宿集落の市認定歴史的建造物で昨年度、屋根葺きが行われた。葺き師はなんと美山の中野誠さん達だ。川崎在住の技術者、市川茂さんの関係で美山の達人たちが横浜で初めて屋根を葺き上げた。残念ながら横浜には葺き師はもういないのだ。茅葺文化協会のネットワークはまさに全国区である。

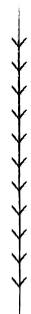


会員からのおしらせ

白川郷合掌造り民家を

「結」で屋根葺き替え実施へ

公益財団法人日本ナショナルトラスト



公益財団法人日本ナショナルトラスト（JNT）では、白川郷荻町集落に合掌造り民家を2棟（旧寺口家、旧松井家）所有しています。旧寺口家、旧松井家ともに前回の屋根葺き替えから20年近くが経過し老朽化が見られることから、JNTでは2棟の屋根葺き替え事業を計画し、平成25年度には旧寺口家の屋根葺き替え作業を実施できるよう準備を進めています。

葺き替えにあたっては「結」の文化を後世に継承していきけるよう、白川村の村民の皆さんとJNT会員からボランティアを募集して実施する予定です。実施時期や参加方法など詳細については、日本ナショナルトラスト「報」などにて告知いたしますので、まだ会員でない方はぜひご入会いただき、「結」による屋根葺き替えにご参加ください。なお、2棟の屋根葺き替え事業実現のため「白川郷茅葺き募金」に、是非ご協力をお願いいたします。

【お問合せ】

JNT事務局 TEL : 03-6380-8511

ホームページ : [http://www.national-](http://www.national-trust.or.jp/properties/shirakawa/)

[trust.or.jp/properties/shirakawa/](http://www.national-trust.or.jp/properties/shirakawa/)

[S-kayabuki-Pj.html](http://www.national-trust.or.jp/properties/shirakawa/S-kayabuki-Pj.html)



▲旧寺口家（現況）



▲前回の茅葺き作業（約20年前）



▲前回の屋根葺き（約20年前）

京都・美山 茅葺屋
茅葺き体験会「カヤマル 2013 @美山砂木」

今回は「茅葺き体験会カヤマル 2013 @美山砂木」の参加者を募集します。

昨年11月に刈り取った茅で、4月に屋根を葺きます。茅刈り体験会に参加されていない方でもご参加頂けます。

茅葺きの里として知られる、京都府南丹市美山町。その片隅にある「砂木」集落には、小さな茅葺きの地蔵堂があります。夏の終わり豊作に感謝するささやかなお祭りがおこなわれるこのお堂の、村の人が協働しておこなう茅屋根の葺き替えに参加しませんか？

茅葺き職人による指導のもとで、人の生業と自然が共生する里山の暮らしと文化を体験する機会です。

期日：2013年4月27日（土）～29日（月・祝） 2泊3日

会場：京都府南丹市美山町高野地区 砂木集落の地蔵堂（宿泊、懇親会は砂木公民館他、男女別の大部屋、共同での自炊）

内容：茅葺き体験

参加費：学生／8,000円 一般／16,000円（送迎費、食材他滞在費、保険料含）

定員：20名（学生優先枠10名）

申込締切：2013年4月18日（木）（期日前でも定員になり次第に締切ります）

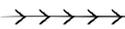
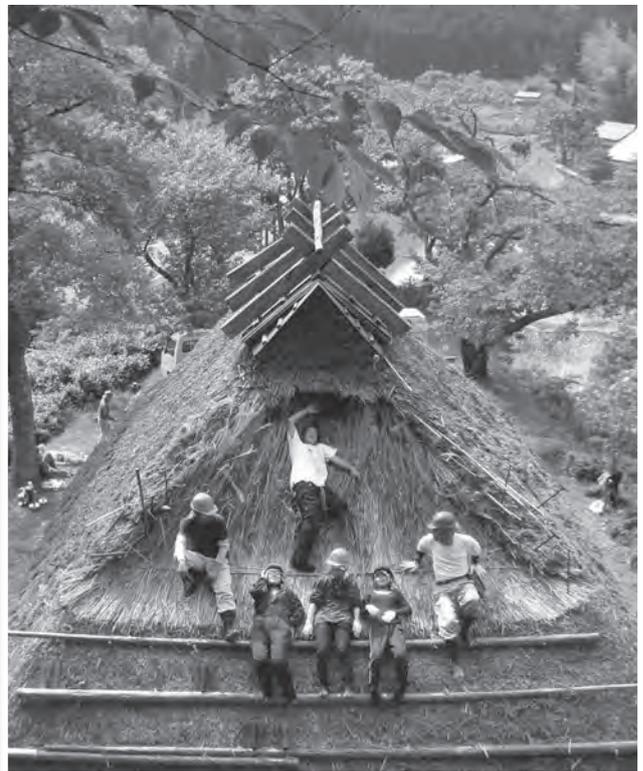
主催：砂木区

共催：茅葺屋

問合：info@kayabuki-ya.net

詳細・申込：http://www.kayabuki-ya.net/ver1/plans.htm

（「茅葺屋」で検索→TOP→PLANS 活動予定・催しの案内）



◎みなさんの情報をお寄せ下さい！
茅葺きについてさまざまな情報とご意見・ご要望をお待ちしております。
茅刈り、葺き替え情報大歓迎。事務局宛までお寄せ下さい。

茅ふきたより 第9号

2013年3月31日発行（非売品）

発行：一般社団法人日本茅葺き文化協会

編集：茅ふきたより編集委員会

一般社団法人日本茅葺き文化協会

〒300-4231 茨城県つくば市北条184

TEL/FAX 029・867・5829

E-mail info@kayabun.or.jp

URL http://www.kayabun.or.jp

（編集後記）
はやいもので天栄村大会から1年近くがすぎ、まもなく富士宮朝霧高原大会です。富士山の広大な草原のもとで、また皆さんとお会いできるのを楽しみにしています。会津でサルツパカマとかホソツパカマと呼ばれる木綿の野良着を見せてもらいました。私も一本持っているのですが、これがとにかく動きやすい。茅ガールに広めようかしら。（弥）